『現在をウタガエ 未来にアラガエ』

令和４年度スローガン

提言書

相模原商工会議所青年部

目次

【結論】.....2
【背景】.....4
【目的】.....4
【提案】.....5
＜相模原にお金を呼び込む要素＞.....5
＜相模原の未来について、構想⇒コンセプト/ビジョン⇒戦略⇒事業計画＞.....5
＜子ども・子育て世代の支援＞.....7
＜放課後の居場所づくり＞.....8
＜STEAM 教育の充実＞.....9
＜街創り(その１：景観)＞.....10
＜街創り(その２：一大リゾート地キャンパーズ・パラダイス[津久井バレー構想]＞ 11
＜街創り(その３：高級住宅街の形成)＞.....12
＜街創り(その４：日本一の祭り)＞.....13
【まとめ】.....13
＜相模原の目指すもの＞.....13
＜最後に＞.....14

【結論】
相模原商工会議所青年部(以下、相模原 YEG とする。)は、地域社会の健全な発展を図る商工会議所活動の一翼を担い、次代への先導者としての責任を自覚し、地域の経済的発展の支えとなり、新しい文化的創造をもって、豊かで住みよい郷土づくりに貢献する団体です。
相模原 YEG は、地域の経済的発展に必要な基盤として、まず、取り組まなければならないことは、若い世代及び起業家の圧倒的流入及び定住化と考えます。昼夜問わず、曜日問わず、24 時間 365 日、人・企業・情報・お金が集まってくる街にして、地域経済を良くします。
また、グローバルレベルで勝負できる人・産業があればその地域は必ず栄えます。
相模原を魅力的な街にしていき、人・企業・情報・お金を集め経済を回す政策提言です。
世界に誇れる相模原になるために、賑わいを創出し未来を創造し、経済的発展に繋がる
①子育て政策②教育政策③街創り政策について、30 の政策を提言いたします。

～全体政策～

＜相模原の未来について、構想⇒コンセプト/ビジョン⇒戦略⇒事業計画＞
政策 1：さがみはらのビジョンの明確化と戦略の策定
政策 2：将来の街の発展する姿を示す
政策 3：将来の街創りには、民間の力を活用する
政策 4：100 万人都市(2050 年)を目指す

～①子育て政策～

＜子ども・子育て世代の支援＞
政策 5：「子育てするなら相模原」を最優先
政策 6：高校 3 年生までこども医療費の無料化（所得制限なし）
政策 7：第 2 子以降の保育料の無料化（所得制限なし）
政策 8：小学校・中学校の修学旅行の無料化（所得制限なし）
政策 9：部活動の道具寄付制度の創設
政策 10：生活保護窓口とハローワーク窓口の連携強化
政策 11：市長意見箱(市長イルカ)の設置、継続的に子育て世代の声を政策に反映
＜放課後の居場所づくり＞
政策 12：学童保育における遊び・英会話・STEAM プログラムの充実
政策 13：学童保育における民間活用の強化(市と民間の利用料金の公平化を含む)
政策 14：放課後や土曜・日曜・祝日の学校施設のさらなる有効活用
政策 15：中学校の部活動について、英会話部、STEAM 関連部、受験部の創設推奨

～②教育政策～

＜STEAM 教育の充実＞

政策 16：レゴ®エデュケーション SPIKE(TM)プライム等により STEAM 教育文化醸成

政策 17：さがみ風っ子展のさらなる発展

政策 18：緑区に STEAM 教育を重視した市立高校を設立

～③街創り政策～

＜街創り(その 1：景観)＞

政策 19：自然の景観を重視し、グリーンベルトを多くする

政策 20：街並みについてデザインの統一を図る

政策 21：相模湖、津久井湖の水質を改善する

政策 22：廃墟を撤去する

政策 23：花を起点とした麻溝台・新磯野地区開発

政策 23-1：相武台駅（商店街)、小田急相模原駅（商店街)、原当麻駅とフラワーベルト

政策 23-2：横浜水道みちの植栽を充実させる(さがみはらロングフラワーベルト)

政策 23-3：相模原麻溝公園一帯を関東各地から人が集まる公園にする

＜街創り(その 2：一大リゾート地キャンパーズ・パラダイス[津久井バレー構想])＞

政策 24：津久井バレー構想により一体化したコンセプトの観光地形成

政策 24-1：R413 にキャンプの食材等を販売する大きな拠点を作る

政策 24-2：R413 に点在するキャンプ場を案内する看板を統一する

政策 24-3：可能な限りキャンプ場や点在する湖・川を遊歩道や自転車道でつなげる

政策 24-4：東京オリンピックの自転車ロードレースで使用された道路の有効活用

政策 24-5：相模湖 IC・相模原 IC～R413 の道をリゾート街道として整備する

政策 25：BBQ 文化を醸成する

政策 26：キッチンカー可能な公園・公共スペース・商店街・道等の数を日本一にする

政策 27：相模川等について、遊泳可能場所を作る（ラフティング等の水レジャー場所)

＜街創り(その 3 ：高級住宅街の形成)＞

政策 28：敷地面積、延床面積の広さを規制した高級住宅街を形成する

政策 28-1：ゴルフ場に隣接した住宅街を形成する

政策 28-2：こもれびの森を景観に取り入れた住宅街を形成する

政策 28-3：アクティブシニアタウンを形成する

政策 29：県営団地の早期建て替え又は住宅地として売却

＜街創り(その 4 ：日本一の祭り)＞

政策 30：上溝夏祭りを日本一の江戸祭りにする

【背景】
相模原は都心から 1 時間程度に位置し、自然環境（山・川・湖）がある政令指定都市です。
市街地は相模原台地で平坦な場所が多く、災害にも強い地域です。
交通網は小田急線、京王線、JR 中央線、中央自動車道によって東京都心と直結しています。
圏央道により、30 分程度で湘南エリア、1 時間程度で箱根エリア他県内各地に行くことができ、東名高速、中央道、関越道と直結しています。また、リニア中央新幹線の駅設置も決定してます。昭和の工業地域化や郊外住居地として、人口は 72 万人まで増加してきました。
昨今では、大型物流拠点が増加しています。
令和 2 年に SDG s 未来都市(令和 2 年度：累計 93 都市)、令和 4 年は CDP から「シティ A リスト」自治体(東京都、相模原市、新潟市、京都市、福岡市)に選定されました。また、シビックプライドの醸成にも取り組んでいます。

国際社会から評価される大枠を策定した今、大事になってくるのは既存市民・潜在市民が実感できる具体的な市の魅力創りです。
多くの市民は、近くの自然環境（山・川・湖）を利用していません。
多くの市民は、不自由を感じていませんが、特色が無いため、魅力的な街と感じていません。
多くの市民は、未来の可能性を感じてはいるものの、具体的な構想が無いため、大きな期待を抱いておりません。

このままでは、人口減少と少子高齢化の進行による影響をまともに受けることになります。
人口減少は、家計消費額の減少、労働者の減少等、地域経済を縮小させてしまいます。

【目的】
これからの街創りでは、人、企業、情報、お金が集まってくることにより地域経済が良くなることが重要です。税金を使って何かを作るのではなく、来てもらって作ってもらうやり方です。１０年国債や地方債を発行して自分のお金を使って街を作っていては破綻するのは目に見えて明らかです。他からやってくるお金で街を創ることが重要なのです。そのためには、黙っていても人が来てくれる状況を作り出す。情報がお金を呼び、お金が企業を呼んで、人が集まる、この結果、地域経済が良くなるという正の循環を作り出すことが必要です。
ただの、「まちづくり」ではなく賑わいを創出し未来を創造する「街創り」です。
人が来てくれるために、今、大事な要素は、①子育て政策、②教育政策、③街創り政策です。
さらには、グローバルレベルで勝負できる人・産業があればその地域は必ず栄えます。
人・産業が集まれば地域での生産が増え、消費が増え、地域経済が良くなります。また、良いサイクルが回りだすことにより経済がまわり、地域経済が発展していきます。

相模原を魅力的な街にしていき、人・企業・情報・お金を集め経済を回す政策提言です。

【提案】

＜相模原にお金を呼び込む要素＞
内向き、下向き、後ろ向きで暗い顔ではなく、明るい顔になるとお金は集まってきます。「相模原ならでは」、「国内唯一」、「国内初」、「国内でいちばん」にこだわることが重要です。
行政の役割としてゼロからイチを創るプロデューサーの役割を果たすことが重要です。

＜相模原の未来について、構想⇒コンセプト/ビジョン⇒戦略⇒事業計画＞
政策を策定するに先立ち、構想、コンセプト/ビジョン、戦略、事業計画が必要となります。
　政策１：さがみはらのビジョンの明確化と戦略の策定
　　[がんばろうプロジェクト、市職向け戦略の研修]

令和 2 年 3 月に「未来へつなぐ さがみはらプラン～相模原市総合計画～」を策定し、「潤いと活力に満ち　笑顔と希望があふれるまち　さがみはら」を将来像に掲げています。しかしながら、基本理念、将来像、実現に向けた基本姿勢、目指すまちの姿のいずれも抽象的な表現にとどまっており、20 年後の姿の具体的イメージが残念ながら湧きません。また、既存政策の延長線上に過ぎず、ゼロからイチを創る発想が感じられません。これでは、相模原市総合計画推進プログラムに頼ることになっていきますが、短期思考の政策に陥りやすくなり、グローバルレベルで勝負できる産業が生まれにくい街になってしまいます。
将来、このような形になるというビジョンを明確にすること。これがあれば、かなり具体的な行動が取れるようになります。ビジョンは１つ。一言で言い表せないとダメです。世界で栄えているところを見ると、特徴はひとつです。ひとつのことで世界に知られるようになることが必要です（相模原には、他人に紹介できるものがあるか？あるいは紹介できるものを創っていく。)。人々はコンセプトに魅かれてやってくるものです（相模原の人だけが分かって、相模原だけで栄えているのではダメです)。全体の構想が見えない、わけの分からないものになっていてはだめです。地域の魅力を上げるには、未来を示すこと、具体的な戦略が無ければ意味がありません。構想⇒コンセプト/ビジョン⇒戦略⇒事業計画で策定すると、ゼロからイチを創る発想で政策ができます。将来の絵を描く際には、経済効果を含めた数値を含めることも大事な要素です。PDCA サイクルあるいは、仮説検証プロセスの実行により、絵にかいた餅になることを防止できます。
まずは、イノベーション・構想力(ゼロからイチを創る発想)による大きな目標の策定・実行を目指すがんばろうプロジェクトを発足することを提言します。
プロジェクト発足に先立ち、例えば、行政のマインドセット・戦略的思考について、子育て施策で成功している明石市長やスーパー公務員の高野誠氏の研修、構想力については、様々な街や事業を構想してきた(街では横浜＜ベニス化＞や甲府市＜リニア都市＞)世界的コンサルタントの大前研一氏の研修が考えられます。

政策 2：将来の街の発展する姿を示す

街の発展において、インフラ整備は大事な要素です。現在は実現が困難だとしても、希望を持ち続け、構想を続けない限り、実現しません。将来の街の発展する姿を構想し、将来あるべきインフラ整備について主張し続けることが大切です。例えば、小田急線の延伸について、上溝地区・田名地区(さらにはその先も含め)への構想は止めるべきではありません。延伸するには何が必要で、そのためには何を行っていくかを考えることが良いのではないでしょうか。
また、橋本駅の開発・相模原駅北口の開発において、街の完成イメージ画像がありません。確かに、限られた人間(市役所職員・学者等)で描く街の完成イメージは発想を限定させてしまい、魅力的な開発計画になりません。しかしながら、夢や計画が無くなってしまっては、開発が進んでいきませんし、人も集まってきません。ビジョンは相模原市が示し、それを民間の力を活用し将来の街の姿としてイメージ画像を早期に示すことが大事です。

政策 3：将来の街創りには、民間の力を活用する

海外で成功した多くの事例は、街の進むべき大きな枠組みは行政が主導しますが、実際にそれを計画していくことについて、民間の力を活用しています。開発計画を民間に委託することにより(手法としては PPP 等、経験がある権威のある民間企業＜世界的企業も含めた大手開発デベロッパー等＞を活用)、将来の街のイメージ図があった方が人・企業・情報・お金が集まりやすくなります。
他にも、SC 相模原の親会社である DeNA の参画も起業家を新ビジネスを創造し続ける企業であり魅力的です。IT 関連や先端技術に関連するベンチャー企業に参画してもらうことは、起業家が集まりやすい街創りに効果的です。また、市内には新規事業支援や街創りの事業を掲げている大企業も存在しているので、そのような企業に参画してもらうことも一案として考えられるのではないでしょうか。

政策 4：100 万人都市(2050 年)を目指す

相模原市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンにおいて、望ましい将来展望として 2065 年の人口を 638,627 人としていますが、橋本駅開発・相模原駅開発をはじめとした開発途上の街であることから転入増加戦略を組むべきです。市の面積や交通網から考えて、世界基準の魅力的な街をつくることができた場合、100 万人都市となりますし、まずは、目指すことによって、そうなるための戦略を練ることになってきますので、大きな目標が必要です。

「2050 年までに 100 万人都市になることを目指す」を提言します。

＜子ども・子育て世代の支援＞

政策 5：「子育てするなら相模原」を最優先
政策 6：高校 3 年生までこども医療費の無料化（所得制限なし）
政策 7：第 2 子以降の保育料の無料化（所得制限なし）
政策 8：小学校・中学校の修学旅行の無料化（所得制限なし）
政策 9：部活動の道具寄付制度の創設
政策 10：生活保護窓口とハローワーク窓口の連携強化
政策 11：市長意見箱(市長イルカ)の設置、継続的に子育て世代の声を政策に反映

子ども・子育て世代の支援が充実することにより、出生数、転入数の増加を図ることが期待できます。「平成 30 年度子ども・子育て支援に関するアンケート調査及びヒアリング調査報告書」によると、「持つつもりの子どもの人数」が「理想とする子どもの人数」より少ないのはどうしてですか？という問に対する回答のうち、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 77%と圧倒的に最も多い状況です。経済的負担について、近隣市(横浜市、川崎市、八王子市、町田市、座間市、厚木市等)よりも多くなることは避け、むしろ、相模原が政令指定都市で初めてとなるような支援をすることは人口増加につながります。相模原では、基本構想に掲げる「将来像」と「目指すまちの姿」の実現に向け、人口減少、少子高齢化が進行する中においても将来にわたり市民が安全で安心して暮らせる社会を実現するため、施策分野を横断的に連携させて取り組む必要のあるテーマを「重点テーマ」として設定しており、「少子化対策」が重点テーマとして設定されています。重点テーマであることから最優先に人員・予算を割り振ります。子ども施策に力を入れると経済もよくなります。
財源の確保については、人口増加による税収増及び他の予算を削減することにより確保します。予算の使い方は、将来の収入に結び付くことに最優先すべきです。一時的な給付は成長に繋がりにくいため限定的にすべきです。また、行財政改革によりさらなるムダの削減を検討することが大事です。
明石市の好循環は成功している一例として参考に値するものです。～明石市市政ガイド～
[施策の実施⇒安心⇒人口増⇒にぎわい⇒財源増⇒新たな施策の実施⇒さらなる安心感へ]
令和 5 年 10 月から子どもの施設使用料等の無料化を予定しており、評価に値します。また、令和 8 年中の中学校給食の全員喫食へ向けて、令和 4 年 4 月に「学校給食改革本部」を設置しており、PFI 等を活用した給食が楽しみです。さらには、小児医療費助成の対象を 18 歳まで拡大し、中学 3 年生までは所得制限も撤廃する方針(中学生以上の通院の一部負担は続く見込)を発表しており、是非とも実現していただきたいです。
しかしながら、子育て世代の経済的負担感を解消するためには、近隣市との比較において負けないことが必須です。人口増加につなげるには、相模原が政令指定都市では初めてという政策が必要です。

そこで、経済支援策として、3 つの政策を提言します。修学旅行の無料化は、国内では珍しい政策となります。課外授業の一環として援助しても良いのではないでしょうか。また、相模原は観光地へのアクセスが便利な地域ということのアピールにもつながります。旅行のベースになる街さがみはらの新認知です。

① 高校 3 年生までこども医療費の無料化（通院も含む、所得制限なし）
② 第 2 子以降の保育料の無料化（所得制限なし）
③ 小学校・中学校の修学旅行の無料化（所得制限なし）

中学生において部活動の道具をそろえることに経済的負担がかかります。必ずしも全員が道具をそろえる必要は無いので、部活動が終わった中学 3 年生から道具を寄付してくれる方を募ります。使わなくなった道具の処分量も削減できるので SDGS にも貢献します。

子育て世代の働き口を確保することが大切です。生活保護窓口とハローワーク窓口の連携を強化します。生活保護窓口にハローワーク職員を常駐させること等により働き口の確保を生活保護相談のプロセスの中に取り入れます。

子育ての政策は、継続的(改善)に子育て世代の声をいかに政策に反映できるかが大事なポイントになります。そのため、市長意見箱(市長イルカコーナー※)を設置し、意見を政策に反映できたか、意見に対する肌身を感じるコメント等により、形式だけの意見箱にしないことを提案します。
※イルカ⇒耳のいい動物を掛け合わせたネーミング

＜放課後の居場所づくり＞

政策 12：学童保育における遊び・英会話・STEAM プログラムの充実
政策 13：学童保育における民間活用の強化(市と民間の利用料金の公平化を含む)
政策 14：放課後や土曜・日曜・祝日の学校施設のさらなる有効活用
政策 15：中学校の部活動について、英会話部、STEAM 関連部、受験部の創設推奨

現在、市の学童保育施設において、プログラムが充実していないことから、利用したいけど、子どもがつまらないという理由から利用していない家庭が存在しています。子どもの声を反映した遊びや将来のための英会話・STEAM プログラム創設を提言します。
学童保育において民間を活用することで、市では出来ないサービスの提供や、住居に近い場所での保育、定員児童数の拡大ができます。その際に必要なのが、市と民間の利用料金の公平化です。民間を利用する際の利用料金の補填を提言します。また、同地域の市と民間施設が一緒にイベントを開催したり、定期的な交流を図ると、子どもたちも楽しいと思います。

ボール遊びが出来る公園等が少なくなってきているので、放課後の一定の時間帯は校庭開放をしてみてはいかがでしょうか(横浜市の放課後キッズクラブ等も参考になります)。また、放課後や土曜・日曜・祝日に教室を貸し出すことにより、習い事の講師をしたいけど場所の確保が難しかったりすることの手助けができます。利用料を取ることにより、市の税収を増やすこともできます。時には様々な分野のプロフェッショナル(STEAM 中心)に講師を務めてもらい地域の大人に教育に参画してもらうことも考えられます。英会話サロンを開くことも考えられます。放課後の教室を自習用に使ってもらうことも考えられます。
中学校の部活動について、現代の環境に合わせた分野の部を創設することにより、SNS に頼らない人と人とのつながりを感じる中学生の居場所づくりに貢献します。例えば、英会話部はグローバル化において英語を話す機会を増やします(英会話教室だけでは量も足りず、料金も嵩んでしまいます。)。STEAM 関連部は、STEAM に対する意識向上・学習深化により将来のキャリア向上につながります。受験部は、塾への依存を減らし、成功事例(勉強法、参考書籍等)の共有により、自己学習の大切さ、塾費用の削減に繋げます。

＜STEAM 教育の充実＞

政策 16：レゴ®エデュケーション SPIKE(TM)プライム等により STEAM 教育文化醸成
政策 17：さがみ風っ子展のさらなる発展
政策 18：緑区に STEAM 教育を重視した市立高校を設立

魅力的な教育制度は人や企業が集まります。今後のビジネス環境においては STEAM 教育が重視されています。小学校時代から STEAM 教育を身近に感じてもらうことは、将来の夢・目標の形成や能力開発に大いに貢献します。STEAM 教育を重視する人材の宝庫は企業にとっても魅力的な地域となります。
そこで、STEAM 教育の充実のために 3 つの政策を提言します。
一つ目は、小学校からレゴ®エデュケーション SPIKE(TM)プライム等の STEAM 教育教材を活用した授業を提案します。中学校では、更に発展した授業を展開します。これにより、相模原で育った子どもは STEAM 教育を意識するようになり、将来の人生設計に良い影響を及ぼします。地域としても STEAM 教育重視の文化が醸成されます。
二つ目は、さがみ風っ子展のさらなる発展です。さがみ風っ子展は自分達のアート作品を世間一般の方に見てもらうことで子供たちのアートに関する心の成長が大きく図ることのできるイベントです。また、対外的にも相模原市がアートに力を入れていることを大いに PR できる機会です。全校児童を対象とし、規模も拡大、様々なイベントや企画、周辺の美術系の大学とも協力し、日本全国に誇れる事業にします。中学 3 年生には、義務教育の最高学年としてロジカル思考、デザイン思考、アート思考を学んでもらい、今後の人生に活かしてもらいます。

三つ目は、緑区に STEAM 教育を重視した市立高校を設立します。現在、主な進学校として中央区には相模原高校、南区には相模原中等教育学校がありますが、緑区には神奈川県を代表するような進学校が存在しません。緑区は橋本駅にリニア新駅ができることから、人・企業の集積が想定されます。県ではなく市で高校を運営することによって、市の意向に沿ったより自由な運営が可能となります。横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校が良い例です。先端科学技術の知識を活用して、世界で幅広く活躍する人間の育成を目指します。相模原には JAXA があることから宇宙分野を加えると相模原らしさがあります。

＜街創り(その１：景観)＞

政策 19：自然の景観を重視し、グリーンベルトを多くする
政策 20：街並みについてデザインの統一を図る
政策 21：相模湖、津久井湖の水質を改善する
政策 22：廃墟を撤去する

人があつまる場所は景観が良いです。
山・川・湖については、植樹、花、遊歩道の整備、景観を損なう人工物の撤去により実現できます。散歩したい場所が近くに沢山あることは住みたい気持ちが高まります。また、高速から見える場所や IC 周辺の景観は街の顔、入口なので重視します。
街並みついては、街路樹、建物の大きさやデザインの統一感により実現できます。植樹については、ジャカランダ等、海外の花も候補にすると面白いです。昔から、梅、桜、紅葉の綺麗な場所は人を集めてきました。ゴールドコーストのタンボリン・マウンテンにおるイーグルハイツは画家や写真家など多くのアーティストが住む町として知られていますが、その中心は長さ 500m ほどのギャラリーウォークと呼ばれるメインストリートです。写真や絵のギャラリーをはじめ、工芸品、手作り小物などのクラフトショップ、ファッジショップ（キャンディーショップ）やカフェ、レストラン、そして大小さまざまなワイナリーショップがずらりと軒を連ねています。芸術分野では藤野地区はアーティストが住む町です。相模湖地区にはバレエ衣装のアトリエヨシノがあります。食に関して津久井地区にはモンドセレクション金賞を受賞している酒蔵をはじめ、複数の酒蔵が存在しています。山の中だったり湖畔に理想のメインストリートを創ってみてはいかがでしょうか。大事なのは、生活臭を感じるものが見えない山の中や湖畔の散策が出来る道であることです。商店街等もデザインを統一することで魅力が高まります。例えば、ヨーロッパにあるような可愛い看板で揃えてみるだけでも素敵な通りになります。パリ等ではアーケド街でさえもお洒落な雰囲気を醸し出しています。
川・湖については、まずは、水質を改善することが第一です。
湖周辺では廃墟が目立ちます。景観を著しく損なうため、目立つ廃墟は撤去します。

政策 23：花を起点とした麻溝台・新磯野地区開発
政策 23-1：相武台駅（商店街)、小田急相模原駅（商店街)、原当麻駅とフラワーベルト
政策 23-2：横浜水道みちの植栽を充実させる(さがみはらロングフラワーベルト)
政策 23-3：相模原麻溝公園一帯を関東各地から人が集まる公園にする

相模原麻溝公園で、かつてグリーンウェーブが開催されたこともあり、花の街にすることで魅力的な場所とします。フラワーベルトの維持費は誘致する企業の協力金とするが、その代わりに、類をみないフラワーベルトを企画します。
相武台駅（商店街)、小田急相模原駅（商店街)、原当麻駅をフラワーベルトにすることにより、散策路として人の賑わいを創出します。
横浜水道みちの植栽を充実させることでフラワーベルトをさらに長くし、宇宙衛星から見たときに認識できるようにします。万里の長城ならぬ、さがみはらロングフラワーベルトというニックネームを浸透させます。
相模原麻溝公園一帯をグリーンウェーブフラワーパークとし、さらなる花壇の魅力強化、特色ある遊具施設を設置し、ふなばしアンデルセン公園みたいに関東各地から人を集めます。

景観については、海外の事例が参考になります。世界の綺麗な景観、商店街の写真集もあります。写真集等を購入することから始め、世界の〇〇のような街にしたいと思い描くことからスタートしてみてはいかがでしょうか。

＜街創り(その 2：一大リゾート地キャンパーズ・パラダイス[津久井バレー構想])＞

政策 24：津久井バレー構想により一体化したコンセプトの観光地形成
政策 24-1：R413 にキャンプの食材等を販売する大きな拠点を作る
政策 24-2：R413 に点在するキャンプ場を案内する看板を統一する
政策 24-3：可能な限りキャンプ場や点在する湖・川を遊歩道や自転車道でつなげる
政策 24-4：東京オリンピックの自転車ロードレースで使用された道路の有効活用
政策 24-5：相模湖 IC・相模原 IC～R413 の道をリゾート街道として整備する
政策 25：BBQ 文化を醸成する
政策 26：キッチンカー可能な公園・公共スペース・商店街・道等の数を日本一にする
政策 27：相模川等について、遊泳可能場所を作る（ラフティング等の水レジャー場所）

中山間地域(旧津久井郡)を、キャンプを中心(他、トレイル、サイクリング、釣り等)とした一大リゾート地として形成します。リゾート地で大事なのは一体化したコンセプトによるバレー構想になります。一大リゾート地になることによって、リゾート地の魅力は相乗的にアップします。海外のウィスラー・ブロッコムの事例が参考になります。

多くのキャンパーが欲しい街の機能を備えます。R413 にキャンプの食材等を販売する大きな拠点を作ったり、R413 に点在するキャンプ場を案内する看板を統一します。
可能な限りキャンプ場や点在する湖・川を遊歩道や自転車道でつなげます。東京オリンピックの自転車ロードレースで使用された道路にニックネームを付け PR し、各拠点ともつなげます。相模湖 IC・相模原 IC～R413 の道をリゾート街道として整備します。大規模開発は、リゾート開発の経験があり権威のある民間企業を活用します。世界的な開発デベロッパーでも良いですし、グランピングの分野の国内企業ではカトープレジャーグループ等もあります。観光客が増えるのみならず、魅力的なリゾート地が近接すれば住民も増加します。また、BBQ 文化を醸成し BBQ グッズ、BBQ 食材、BBQ レストランの産業を興します。BBQ 文化醸成には、高級・本格 BBQレストランの誘致、仲間・家族での BBQ 頻度の向上、BBQ の知識を得るための学校を創設します。初めのうちは、腕のある料理人を 1000 万円×5 人×5 年の給料補填により呼び込みます。スペインにある世界一の美食の街サン・セバスチャンの BBQ 版です。
車社会であること及び多種多様な人種を集めるにはキッチンカーは相性が良いです。キャンプとつながる BBQ 文化の情勢にも役立ちます。行政の役割は市民にグッドライフを提供すること、違反しないような街創りをすることが役割です。キッチンカーを運営する事業者にとって煩雑にならない手続の構築がポイントです。
相模川等は、相模原市民にとって身近ではありますが、水遊び場所が無いに等しい状況です。遊泳可能場所を作ることで相模川の観光能力は一段と高まります。近隣では、相模川上流の桂川や奥多摩、秩父長瀞、日本においては奈良県吉野川等において川遊びの充実化(ラフティング等)が進んでおり、世界的にも注目され始めています。

＜街創り(その３：高級住宅街の形成)＞

政策 28：敷地面積、延床面積の広さを規制した高級住宅街を形成する
政策 28-1：ゴルフ場に隣接した住宅街を形成する
政策 28-2：こもれびの森を景観に取り入れた住宅街を形成する
政策 28-3：アクティブシニアタウンを形成する
政策 29：県営団地の早期建て替え又は住宅地として売却

高級住宅街の形成は人・企業・学校を集めることができます。相模原市は東京や横浜、川崎に比べると土地の値段が低いため、敷地の広い一軒家街を形成できます。日本の郊外には高級住宅街が存在しません。海外には郊外に高級住宅街が存在します。自然環境を活かすことによって、高級住宅街の形成が可能です。ゴルフ場に隣接した住宅街や、こもれびの森等の景観を取り入れた高級住宅街は郊外ならではの高級住宅街となります。
アクティブシニアタウン形成に必要な要素が相模原にはあります。都心との適度な距離感、鉄道・道路の交通インフラ、医療施設、スポーツのできる公園、農地等がそれにあたります。

アクティブシニアに対するサービス提供のために若い世代の雇用が生まれます。アクティブシニアタウンはアメリカが先行しており、日本においてはアクティブシニアタウン稲毛が参考になります。また、アクティブシニアから若い世代に対するビジネスの助言制度や投資制度を構築してみても面白いのではないでしょうか。相模原にはビジネス経験豊富なシニアが既に多く住んでいます。そのような方の知識・経験を若い世代に伝えていけるネットワークの構築をします。若い世代を重視するあまりに、高齢者の予算を削減するのではなく、高齢者にとっても住みやすい街にすることも大事です。予算は世代間で奪い合うのではなく、必要ない分野から必要のある分野へと割り振る考え方が大事となります。
いくつかの県営団地は野放しの状態であり、景観を損ねています。早期の建て替え又は良い場所が多いため敷地を住宅地として売却してもらうことを提言します。

＜街創り(その４：日本一の祭り)＞

政策 30：上溝夏祭りを日本一の江戸祭りにする

誇れる日本の祭りがあることは、人を呼び込みます。上溝夏祭りは、県北最大の夏祭りといわれ「かながわのまつり 50 選」にも選ばれています。神輿と山車の競演だったり、激しい神輿揉みは魅力があります。しかしながら、今のままでは、全国から人が来るような祭りにはなりません。規模においては、上溝地区に限らず、上溝の文化を伝承している周辺地区も併せた形にします。周辺地区の神輿と山車も終結させ、神輿と山車を併せた数では日本一の規模にします。山車の無い地区については、居囃子を点在させます。祭りのコンセプトも江戸祭りとして明確にします。街並みについても、上溝地区のかつての繁栄した当時の雰囲気に統一します。お囃子については、市内小学校で出張授業を実施し、上溝地区以外の子供たちにも日本文化を習得してもらいます。何か一つでも日本文化を会得していると、将来、国際的に活躍する時にも大いに役立ちます。

【まとめ】

＜相模原の目指すもの＞
今必要なのは、全体としてビジョンを共有し、構想を作り上げることです。そしてその際は相模原の特徴（自然環境（山・川・湖）があること）を最大に活かすようなものでなくてはなりません。他の自治体を真似するような第二の〇〇をつくっただけでは魅力に欠けます。相模原は開発が進んでいく街です。
第 1 に子育て世代が住みたいと感じてもらうこと、そのためには、できる限りの子育て世代の経済支援を実行していくこと、STEAM 環境を重視する教育文化があること、こんな街に住んでみたいを描き実現していくことが大事となってきます。

未来を描くに際しては、まちの景観がきれい、遊べる自然環境（山・川・湖）があり一大キャンプリゾート地がある、食文化（BBQ、キッチンカー、多種多様）がある、高級住宅地があるという要素があれば、自然環境を思いっきり楽しむことができます。
自然環境を思いっきり楽しむことが出来る街であれば、橋本駅、相模原駅、麻溝台・新磯野地区他の開発地に企業が集まってきます。未来の相模原は交通の要所となります。相模原には高技術・最先端技術の製造業があります。大手企業の製造・開発拠点があります。JAXA等の宇宙先端産業もあります。広い土地があります。さらには伝統的日本の祭りもあります。つまり、明るい未来が描ける素地があります。

「相模原市の行政の役割としては、ゼロからイチを創るプロデューサーの役割、そして、地域に住む住民だけでなく、地域に所在する企業や大学など地域構成員がかかえる課題の解決に向け、その解決策の利害・得失をより高い次元から考察し、適切な実施案を採択し、その実現に向けて行う事業活動であるコーディネーターの役割を期待します。」
～平成 27 年度・28 年度 自主研究 先端都市の要件-起業塾を設立し第 2 のシリコンバレーを目指せ-市民研究員 成沢広行 引用～
具体的には、街づくりの大きな枠組みを市が示し、その計画・実行・資金提供を民間が実施していきます。実施していくに際して障壁となるものがある際には、市がスピーディーに規制緩和を含め取り除いていくことが成功する要因となります。

相模原は発展要素を持ち合わせています。あとは全体のコンセプトと情報発信、規制緩和が残された課題です。

＜最後に＞
富とは外から来るもので、外から人や金が来るような街を創らなければ豊かにはなれません。相模原周辺は横浜、川崎、八王子、町田他、ライバルはいっぱいいます。その中で勝っていけるように、今こそ相模原は新しいビジョンを持って人・企業・情報・お金が集まってくる街創りを図るべきです。ただの、「まちづくり」ではなく賑わいを創出し未来を創造する「街創り」です。

相模原 YEG は、賑わいを創出することに、これからも行政と手を携えていきます。
相模原 YEG は、世界最強の商人になります。

「私の夢は無価値だ。私の計画はゴミだ。私の目標は無駄だ。どれもみな、行動が伴わなければまったくの無価値なのだ。」～『世界最強の商人』オグ・マンディーノ著より引用

以　上